

熱田神宮 宝物館だより

熱田神宮宝物館

編集 内田雅之

〒456-8585
名古屋市熱田区神宮一丁目1番1号
TEL (052)671-0852 FAX (052)671-1202
(年6回発行)

新春特別展「日本の聖地 ～伝世の神社宝物～」より

1月1日(月)～1月30日(火)
(期間中無休)

※展示品は毎月入替いたします



和歌色紙「春くれは云々」 彩箋墨書 1幅 縦16.5cm 横14.7cm 江戸時代 久能山東照宮蔵

『古今和歌集』卷第七・賀歌に収録された、本康親王七十の御賀に於て紀貫之が同親王を壽ぎ詠んだ歌を、6代將軍徳川家宣が染筆したものである。金の砂子や切箔が蒔かれ、御簾が掛けられ花が散らされた彩箋に、「春くれは 宿に先(づ)さく 梅のはな 君が千とせの かざしとぞ見る」と、バランス良く流麗で品格の高さを窺わせる書体であらわしている。

新春特別展「日本の聖地 ～伝世の神社宝物～」

日本人は、古くより神を尊び祖先を敬い、神々と共存し祖先伝来の美風を学ぶことにより、幼い頃より家庭や地域、ひいては国に尽くす精神を受け継いでまいりました。普段老若男女を問わず、誰しものが神社の境内に入る時、何かしら清らかさに心の洗われる様を意識し、神前に立つ時には一切を忘れて、一心に神に向かう清々しい心になっていることでありましょう。神々に対する敬神の念は、古今を通じて一貫して不易であり、全国各地の神社において脈々とその信仰を現在に伝世しています。

本展覧会では、各地に古くより連続と息づく神社信仰を紹介するとともに、それぞれの神さまに捧げられた祈りの証とも言うべき神社ゆかりの宝物を通じ、先人たちの神さまへの敬虔な祈りの姿を思い浮かべ、神社に対する理解を深めていただく一助とし、日本人としての志を更に一段と昇華させ、後世に継承してゆくことを目的に開催します。

本年は、静岡県の静岡浅間神社・三嶋大社・富士山本宮浅間大社・久能山東照宮・秋葉山本宮秋葉神社、岐阜県の南宮大社など、著名古社ゆかりの宝物と、当神宮の宝物をあわせて展観します。

新年の初詣にあわせ、是非御拝観くださいますよう御案内申し上げます。

■会 期 平成30年1月1日(月)～1月30日(火) 会期中無休

■主 催 熱田神宮 中日新聞社

■後 援 愛知県・名古屋市両教育委員会
名古屋鉄道株式会社 神社本庁

■特別講演会 平成30年1月20日(土)

演 題 「徳川家康公と久能山東照宮」

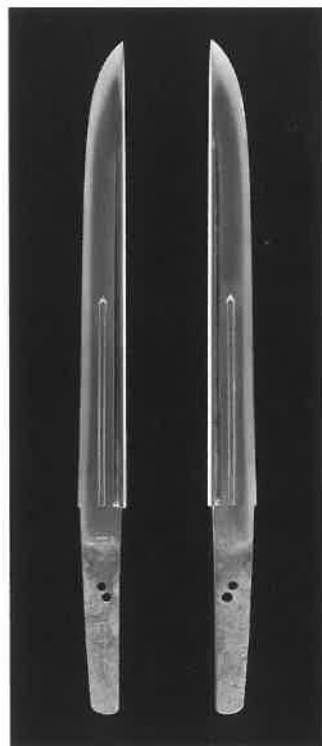
講 師 久能山東照宮 宮司 落合偉洲氏

■ 同 平成30年1月27日(土)

演 題 「熱田神宮宝刀異聞」

講 師 熱田神宮 文化研究員 福井款彦

※いずれも午後2時より 於 文化殿講堂(聴講無料)



国宝 短刀 銘 来国俊 / 正和五年十一月日

熱田神宮蔵



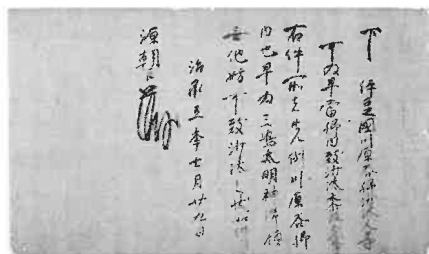
軍配団扇 伝徳川家康所用

静岡浅間神社蔵



南宮大社古図(部分)

宇都宮家蔵



重文 源頼朝下文 三嶋大社矢田部家文書

新春特別展 展示品より



静岡県指定文化財

くれないとおどしほらまさ

紅糸威腹巻

1領

室町時代

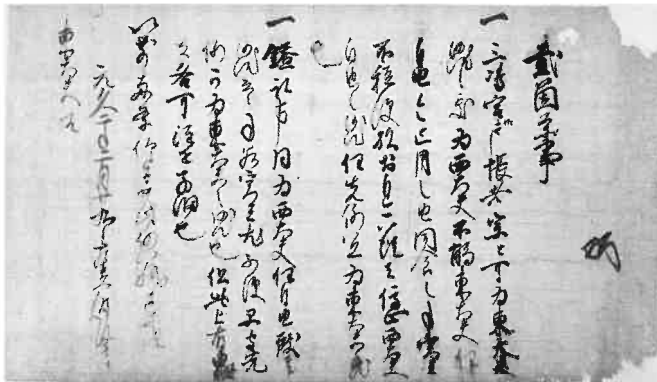
胴高 53.0cm

静岡浅間神社蔵

前立拳^{まえたてあげ}2段、後立拳^{うしろたてあげ}2段、長側^{なががわ}4段の背の空く形式の腹巻で、草摺^{くさずり}は9間5段下りとなる。鉄製の小札^{こざね}を並べて綴り紅糸^{べり}で威し、胴は裾絞まり^{ゆるぎのいと}となり、揺糸も短く通常に比してやや小ぶりの形状である。

腹巻は背面中央に隙間が生じ、背面の防御能力は劣るが、本領はその隙間を塞ぐための「背板」と称する装備が付随している。

本領は松平竹千代（のちの徳川家康）が元服する天文⁽¹⁵⁶⁵⁾24年の前年に、当時人質となっていた駿河・遠江国の太守、今川義元より与えられたことが、天保14年⁽¹⁸⁴³⁾に編まれた『駿国雑志』の「浅間社」の項に記されている。尚、松平竹千代は元服式を静岡浅間神社で執り行ったとされる。威糸が経年劣化で色褪せているが、製作時の漆黒の小札と紅糸の絢爛さの対比の美しさが想像できる腹巻である。



重要文化財

ほうじょうときまさ みきょうしよ

北条時政御教書 1通 鎌倉時代

縦 31.7cm 横 55.0cm

三嶋大社矢田部家文書

本書は、⁽¹²⁰⁵⁾元久2年2月に「武箇争事」と題して発給された北条時政の御教書である。三嶋大社の御戸帳と御鑑の取扱いについては、東大夫家（現 矢田部家）に対して、いずれも先例に従い、これを

侵害した駿河国二宮の神主を務める西大夫家ではなく、東大夫家にその権限を守るよう裁許したものである。

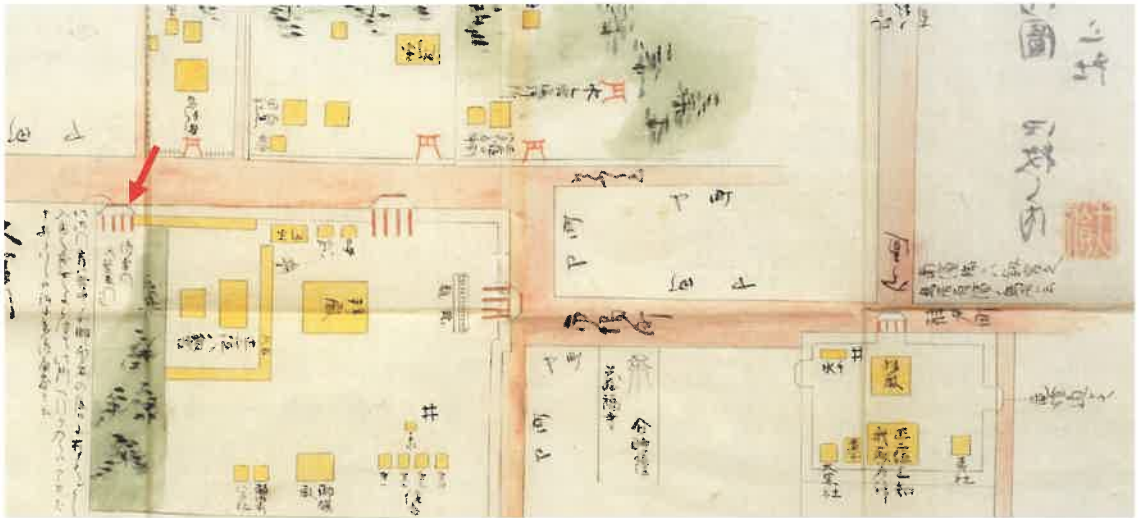
北条時政は平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した武将で、鎌倉幕府初代将軍源頼朝の正室政子の父として知られ、鎌倉幕府の初代執権を務めた人物である。本書は三嶋大社文書155点、社家である矢田部家に関連する矢田部家文書437点を合わせた「三嶋大社矢田部家文書」として重要文化財指定を受けたうちの1通で、中世以来の同大社並びに矢田部家、また同地方の歴史を紐解く貴重な文書群として知られている。

2月平常展 — 熱田神宮宝物展 —

2月2日(金)～2月27日(火)
(期間中無休)

※展示品は毎月入替いたします

～コーナー展 「描かれた熱田神宮」より～



寛延三年 ^{あつたえず} 熱田絵図 1 舗 (部分) 紙本淡彩 縦 42.2cm 横 116.5cm 江戸時代

4 舗からなる絵図の一舗で、当神宮の本宮をはじめ、別宮「八剣宮」や境内に鎮座する諸社、また周辺の様子を寛延三年に描いたものである。各社殿には社名が記され、処々には御祭神の神階が記されると共に、各社殿にまつわる説明がなされている。写真は別宮とその南、現在は境内南端に鎮座するが、当時は市場町に鎮座していた上知我麻神社をあらわした部分である。



(清雪門)

別宮東側の土塀には2棟の門が配されており、北側(向かって左)の門には「清雪門」(矢印)の表記がなされている。さらに続く説明によれば、この門は本来本宮の北門であったものがこの場所に移され、また当神宮の御神体受難にこの門が絡んでいることから、俗に「あかずの門」とも称する旨が記されている。

そして別宮境内に目を転ざると、「春日」・「八幡」・「住吉」などの文字が見て取れ、当時は全国の著名な神を境内に勧請していたことが窺える。

その他の主な展示品

◎重文 ○県文

- 《書 跡》 ◎日本書紀(巻第十) ○「熱田太神宮」神号 「天満大自在天神」神号 般若心經 他
- 《絵 画》 菅公坐像 旭日静波図-村瀬環山筆- 朝陽の図-石川英鳳筆- 四君子の図 他
- 《工 芸》 ◎彩繪檜扇 ◎錦包挿鞋 ◎黒漆根古志形鏡台 ◎入帷残欠 梅花散双鶴鏡 蓬萊鏡 他
- 《刀 剣》 ◎太刀 銘宗吉作 ◎太刀 銘備州長船重光 太刀 銘備州長船祐光 脇指 銘備州長船盛重 他
- 《コーナー展示 -描かれた熱田神宮-》 ○熱田神宮古絵図(残闕) 熱田神宮境内図 熱田神宮真景図 舞楽之図-渡辺清筆- 熱田年中行事絵巻 春之神宮図-小林松僊筆- 初えびす図-石川英鳳筆- 他